

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

2026 年上半期、中国負極材市場の動向と次世代バッテリー技術トレンド

1. 市場概況と出荷量データ

2026 年上半期、世界的な蓄電池市場の成長と車載用バッテリー(NEV)需要の着実な増加を背景に、中国の負極材市場は「需給バランスの健全化」と生産・販売の急ピッチな拡大を記録し、前年同期比で約 50%増加した。

ICC 資訊と業界大手 SMM (Shanghai Metals Market) のデータによると、2026 年上半期の総販売量（出荷量）は約 191 万トン、前年同期比で約 48%増となった。

新エネルギー車 (NEV)の 1 台当たりのバッテリー搭載容量の大型化や、海外輸出量の倍増が、負極材販売の堅調な基盤となった。

2. 用途別市場の動向と技術トレンド

中国における負極材の用途は、主に車載用バッテリー、定置用（エネルギー貯蔵用）バッテリー、及び民生用デジタル機器向けバッテリーの 3 つに分類される。

① 車載用バッテリー (EV 向け) : シェア約 52%~56%

2026 年時点で、車載用バッテリーは全体の約 52%~56%を占めており、主に中~高性能の「人造黒鉛」が主流となっている。近年、4C/6C 対応の急速・超急速充電バッテリーの大規模な市場投入や、大型円筒形バッテリーの普及に伴い、負極材の技術トレンド変化が顕著である。具体的には、粒径 10 μ m 以下、場合によっては 5~8 μ m 程度まで極細化した人造黒鉛微粉（グラインド品）や、シリコン系負極材の採用割合が大幅に増加しつつある。

② エネルギー貯蔵用バッテリー (ESS・定置用) : シェア約 36%~40%

中国国内におけるリチウムイオン蓄電容量は、第 15 次五カ年計画の目標（300GW）に向けて急増しており、2026 年上半期でインフラとしての導入が加速している。

エネルギー貯蔵用バッテリーは全体の約 36%~40%を占めている。中国市場では、バッテリーの「長寿命化」と「低コスト化」の両立が現在直面している主要課題である。また 2026 年現在、ナトリウムイオン電池 (SIB) とそれに伴うハードカーボン（難黒鉛化炭素）負極材の組み合わせは、リチウムイオン電池 (LIB) を補完・代替する「次世代の主演」として最も注目を集め、商用化が加速している。

ハードカーボン分野において、日本は長年の研究開発と生産実績があり、品質の安定性、純度の高さ、特許網などの面で大きな優位性を持っている。一方、中国は圧倒的な量産スピードと超低コストを武器に、市場での導入・普及を急速に拡大している。

③ 民生用デジタル機器向けバッテリー : シェア約 6%~8%

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

民生用デジタル機器向けのバッテリーは全体の約 6%~8%を占める。この分野の負極材は、機器の薄型化・高機能化や急速充電への要求に伴い、さらなる高エネルギー密度化を追求する重要な局面を迎えている。

3. 総括：次世代電池の実用化と「複合材料時代」への移行

中国において 2026 年は、急速充電対応電池や半固体・全固体電池など、高エネルギー密度電池の「実用化初年度」になると目されている。

これに伴い、負極材料は従来のグラファイト単一の時代から、グラファイトをベースにシリコン系、リチウム金属あるいは新炭素材料を高度に組み合わせた「複合材料の時代」へと大きく移行すると見込みである。

今後は、単なるコスト競争だけでなく、次世代電池の性能を引き出すカスタマイズ力と環境規制（カーボンフットプリント対応など）への適応が、企業の勝敗を分ける重要なファクターとなる。

出典：ICC 資訊など